南一弘の

街を行く

第15回 大津 *Ohtsu*

レトロな気分で

最近読者の方から司馬遼太朗の紀行文集『街道を往く』みたいですね、とよく言われます。面白いから頑張って下さいとのエールを頂きつつ、不動産色をもっと出さねばと解っていながら脱線、思わぬ方角に向ってしまうこともしばしば。こんな小生のコラムですが長い目でみて頂き、何卒本年も宜しくお願い致します。

さて、新年号に相応しく（小生が思っているだけかもしれませんが）、今回は「大津」を取り上げます。JR大津駅から商店街を抜け15分も歩けば琵琶湖です。道すがらは土産物屋と飲食店が並ぶばかり、特に目を引くものはありません。まさしく琵琶湖を売り物とした観光都市です。近隣には世界的な観光都市・京都が控えているだけに、いかんせん対比としての寂しさが漂っていますが、かえってその哀愁が街の売り物というか一種独特の雰囲気を醸し出しています。街なかの通りは狭く、民家のほとんどは木造で間口が狭く奥が広い、さながら京町家です。大津は京都文化の色合いが濃い、いいやむしろ、本来の京都はこうした街だったのかもしれません。

駅前商店街（寺町通）と琵琶湖湖畔に沿う国道161号線の交差点に、目立つ建物があります。これが「旧大津公会堂」です。レトロな佇まいは昔の街の繁栄を物語っています。昭和9年に建てられたもので、明治・大正の西洋建築に比べると規模の大きさも派手さも無いですが、どこか上品。これを観にわざわざこの地へ訪れる人は、さすがに少ないでしょうが、一度観ると独特の感覚に陥ります。お試し下さい。

寺町通の西側には市民の足であり、かつ、京都と大津を結ぶ大動脈、「ちんちん電車」こと京阪京津線が通ります。JRの便利さも良いですが、レトロ気分をゆったり楽しむのならこちらがいいでしょう。この辺りに来ると、ちらほらオフィスビルにも遭遇します。オフィスビルに囲まれた日常を当たり前に思っていたのですが、これが本来の街の姿ですよね。住宅地は住むところで働く場所ではないのですから。こんなことを市街地で、それも街の真ん中で感じるのも、レトロ気分の街大津ならではなのでしょう。

琵琶湖の水運を活かし、かつて栄えた近江（以前のこの地域の名称）は、近江商人で知られお金儲けのうまい人が多い土地柄。いまも商売上手を「近江商人だから」と良い意味でも悪い意味でも使われます。正しくは商売に対する真摯で厳しい立ち振る舞いを、甘い人達が羨んでそう言ったのでしょう。このように考えると、この地に「旧大津公会堂」が建てられたのも納得できます。昔の日本は歴史とロマンのある不動産であふれていたのですが――、ロマンよ、もう一度…。

旧大津公会堂

南 一弘

1982年大学卒業後、三井不動産販売に入社。ローンスター・ジャパン・アクイジションズを経て、2001年エートス・ジャパン・エルエルシーを設立。同代表に就任。2005年4月MID都市開発（旧松下興産）の代表取締役に就任。2006年株式会社ジャパン・アセット・アドバイザーズを設立。同代表取締役に就任。

BLOG「南一弘の負けない不動産投資」
http://blog.livedoor.jp/minami_kazuhiro